

# 社説

## 啓発型健診

弘前大学医学部に2018年春、地域住民の健康づくりと医療・健康産業の拠点となる「健康未来イノベーションセンター」が開設される。このセンターの目玉事業となる、健診と啓発を組み合わせた「啓発型健診」が先日、試行された。

健診結果をその日のうちに知ることができ、結果に応じた健康教育プログラムをその場で受講できる新型健診である。市民らが健康に関する意識を高め、本県の健康寿命延伸という効果に結び付くことを期待したい。

新たに整備されるセンターは弘前が県、弘前市と共同提案した「革新的地域ライフイノベーション創造拠点」。地域が持つ技術や資源を活用して産学官が共同研究を行う拠点づくりを支援する、文部科学省の「地域科学技術実証拠点整備

事業」に採択されたものだ。

弘前は、05年から継続して行っている大規模な住民健診で結果を蓄積し「健康ビッグデータ」という世界的にも類を見ない資源を有する。13年には国の革新的イノベーション創出プログラム「COI」（センター・オブ・イノベーション）

### 意識付けで健康寿命延伸を

の拠点となり、すでに官民と疾病予防などと健康づくりに向けて研究を推し進めている。

センターでは、弘大COIで実施する新型健診の実証開発を行うほか、自治体や大手企業など産学官が一堂に集い、スーパーコンピューターによる健康ビッグ

データの解析などを行う。

新型健診はその中でも目玉事業だ。これまでの一般的な健診では結果通知まで時間がかかり、問題があってもその後の治療や再検査、生活改善につながりにくいという課題があった。啓発型健診では検査から結果判明、それに応じた健康教

育プログラムをその日のうちに受けられることができる。

市民らにとっては日ごろの生活習慣を見直すきっかけとなり、健康への意識付けを図るには効果的な仕組みといえる。県のまとめによると、15年の本県の75歳未満のがんによる死亡率は全国で最も

高く、改善率もワースト2位という深刻な状況下にある。がんに限らず生活習慣病などが原因で、働き盛り世代の死亡割合が高いのも特徴だ。

事業所におけるがん検診受診の勧奨や仕事を続けながら治療を受けられる職場環境の整備はもちろんだが、改善には一人ひとりの健康への意識を高める取り組みが重要だろう。短命県返上に欠かせないのが、容易なようで難しい県民の意識改革といえる。

弘前発の新たな健診システムがその動機付けとなることを大いに期待したい。市民らの健康意識が高まり健康寿命の延伸につながれば、イノベーション拠点としても注目され、同時に関連産業の振興による地域経済活性化に結び付くはずである。